



ギターのニューフェイス

The New Face of Classical Guitar

⑤

ウラジミール・ドゥルジニン

Vladimir Druzhinin
2019(Russia)

写真：木田新一

文：中里精一（本誌編集部）

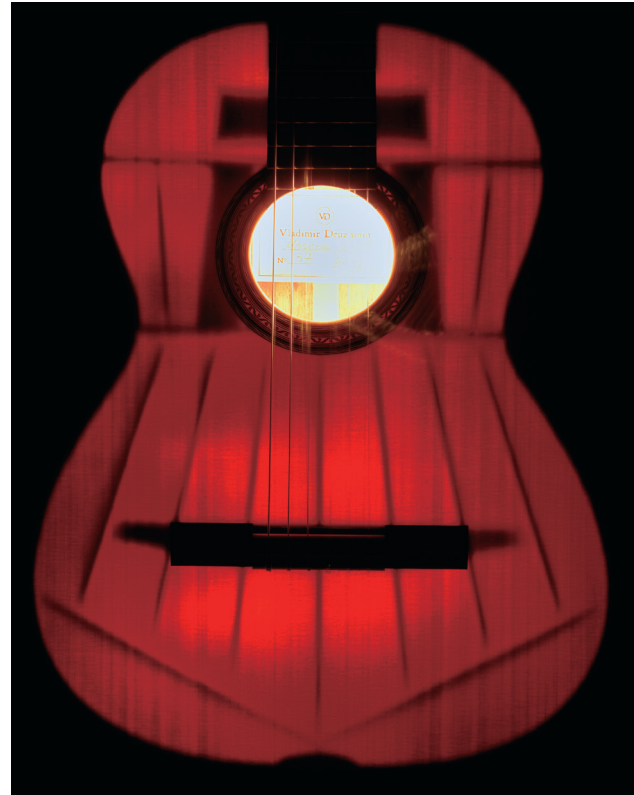


ウラジミール・ドゥルジニンは1983年、ロシアのノボシビルスクで生まれた。父は物理学者、母は音楽家。2000年に物理学と数学の専門高校を卒業し、ノボシビルスク州立大学に入学。2004年に物理学の学士号を、2006年に修士号（加速器物理学専攻）を取得して卒業。2000年から2008年まで核物理学のブドカー研究所 Budker Institute でインターンとして働いた。2004年から（大学修士課程に加えて）ノボシビルスク音楽大学の弦楽部でダブルベース演奏を学ぶ。

2007年に地元のビッグバンドのベース奏者として参加し、演奏活動も始めた。2010年に演奏旅行でモスクワを訪れた際、偶然ギター製作家ティモフィー・トゥカチ Timofey Tkach と出会い、スペインの伝統に基づいた作品を見て感激し、弟子入りを決意した。それ以来、ドゥルジニンはクラシックギターの様々なモデルやリユートを製作し、楽器修復作業もしている。

今年の5月初頭に、ドゥルジニンは新作のギターを納品のため来日し、現代ギター社にも立ち寄ってくれたので、お話を伺った。





カ木は典型的なトーレス・タイプ。

——ロマニリオスのギター製作講習会に参加したそうですね？

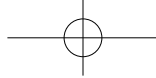
D ドウルジニン（以下、D）いや、それは参加していませんが、7年くらい前に彼のスペインのギホサのお宅に表敬訪問しました。彼の本「アンオニオ・デ・トーレス」を読んでとても勉強になったし、あの本は理解できる人にとっては貴重な情報源です。彼とギターについていろいろ語り合いました。私はギターは音の共鳴器と考え、共鳴音をどこに持ってくるかが重要だと思っています。彼にそのことを聞きましたが、彼は答えてくれませんでした。彼が自分用に作ったギターも見せてもらいました。これは絶対に売らないそうです。

——彼の最後の作品ですね。

D 彼はまた、自分がカ木の非対称配置の創始者だと言っていました。スペインでは他にもホセ・ラミレス、ミゲル・ロドリゲス、イグナシオ・フレタなどが非対称のカ木デザインで作っていますが、実際は誰が創始者かは分かりません。その反面、スペインでは未だにトーレス流の対称のカ木デザインで作っている製作家がいます。私としては、歴史に沿って、いろいろな流派のデザインを作りたいと思っています。

——あなたの最も好むデザインは？

D 私が最初に作ったのはヘルマン・ハウザーのモデルでしたが、その後、マヌエル・ラミレスと弟子のサントス・



エルナンデスに移りました。

—貴方は音響測定用の機材を使っているのですか？

D 波形分析のソフトウェアをコンピュータに組み込んであります。自分の表面板の、力木を付ける前の音をすべて記録しておいて、後々の参考にします。

—ロシアでは広大ですから、スプルースなどの材料が採れるのでは？

D ロシア南部のコーカサス地方の森林地帯ではスプルースが採れます。今回私が日本に持ってきたギターもそれを使っています。しかし、コーカサスのスプルースには繊維がねじれているものが多いんです。30セット買ったとして、木目が均等で真っ直ぐなものは10セットくらいです。ですから、私は主に材料はスペインに行き買います。

—日本の工具は知っていますか？

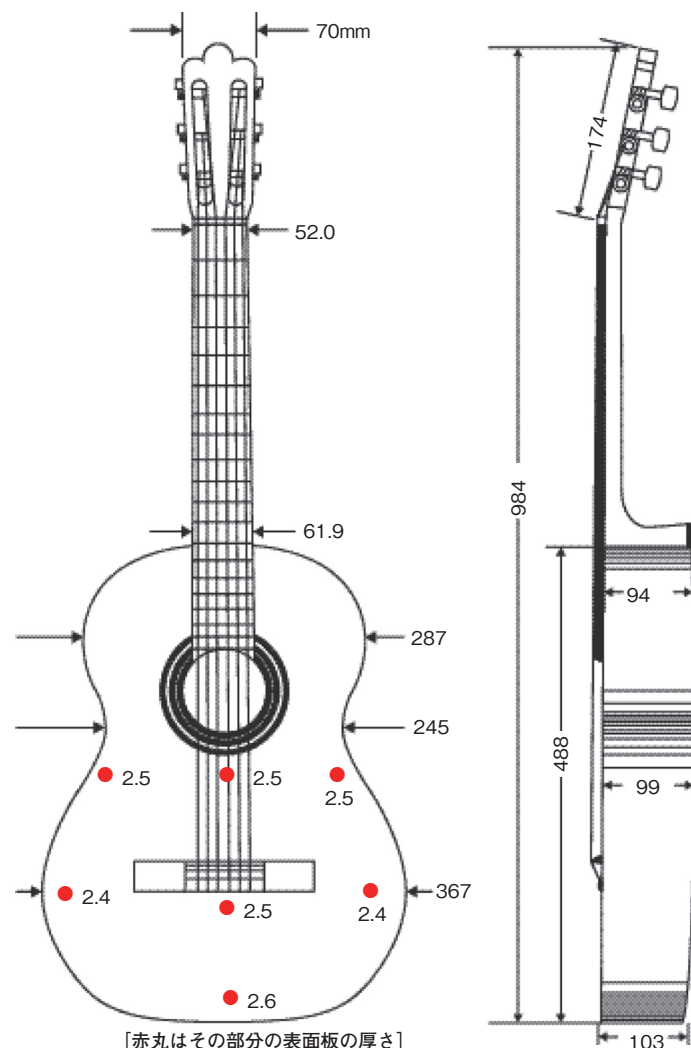
D はい、押しノミや小刀は日本製を使っています。今日もこれから、砥石専門店に行きます。

—天然砥石は高いですよ。財布に気を付けて！

(楽器提供：(株)S.I.E.)



イタリアのアレッシ製糸巻きを装着したヘッド



サイズ	
重量	1500g
弦長	650mm
弦幅 (上)	42.6mm
弦幅 (下)	60.3mm
サウンドホール径	φ 85.3mm
ブリッジ	28 × 180 × 8.2mm
ネック厚 (上)	22.5mm
ネック厚 (下) 9F	23.8mm
材料	
表板	コーカサス・スプルース
裏・横板	中南米ローズウッド
ネック	セドロ
指板	黒檀
ブリッジ	中南米ローズウッド
塗装	セラック
糸巻	アレッシ